

<福島県知事賞>

税金

喜多方市立第三中学校 3年 畑中 美月

私は今現在普通に生活しているうえで、税金を納めている事のメリットはあまり感じられていません。身近なもので、買い物をした時に発生する「消費税」の事ですら、支払ったお金が、どのように、どんな役に立っているのかも分かりません。なので、この作文を書くにあたって、インターネットを活用し、調べてみる事にしました。

調べてみると、私たちの身の周りには税金によって支えられているものがたくさんありました。まず、もし税金が無ければどうなるのか述べます。例えば、「火事になっても消防車が来ず、火を消せない」「急病人がいるのに救急車を呼んでも来ない」などです。消防や、救急などの、生命の存続に関わる機能が無いと思うと、とても怖いのです。また、税金が使われているものの中で、一番身近な例は、「学校」です。日本では、小学校、中学校、高校など、皆んながしっかりと勉強できる環境をつくる為、教育にたくさんの税金が使われています。例えば、学校の校舎、体育館、プール、黒板、教室の机や、椅子、教科書、パソコン、体育で使うボールや、跳び箱など、たくさんの物に、税金が使われています。一年間で一人あたりの子供に使われる税金の金額はなんと、小学生は約八十五万円、中学生は約九十八万円、高校生は約九十一万円ものたくさんの税金が、私達に使われています。もしこの税金が無かったら「教科書や机、黒板、校舎などが無い為、授業ができない」という事になります。私達が普段受けている「何気ない授業」でさえ、税金が無ければ、受ける事もできないのです。もう一つ、身近な例をあげると、「警察」です。犯罪を未然に防ぐことができる警察があることで、私達は安心して日々の生活を送ることができます。もし、警察が無ければ、犯罪率は上がります。そうなると、安心して生活する事ができないので、自分達で警護団のようなものを結成するしかない状況に、なってしまいます。しかし、私達はプロではないので、本物の警察には遠く及ばない成果を出すのみという事になってしまい

ます。そう考えると税金を納めずに苦勞するよりも、一定の金額を支払うことで、安心で安全、そして心地の良い環境を得られる税金は、とても効率がいいという事が分かります。

このように、私達の生活のほとんどが、税金によって成り立っています。この作文を書く前の私は、「何で私達が税金を払っているんだろう」「税金で、何の役に立っているんだろう」と思っていました。この作文を通して、税金についてよく知れたと思います。税を納めるという事は、義務であり、責務でもあるという事をきちんと理解し、自分の手元から出て行ったお金が何かしらの形で自分に戻ってきているという事を忘れずに納税者の一人として、税を納めていきたいです。